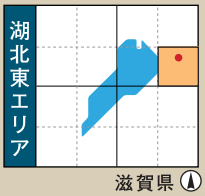
名勝
国指定

醒井峡谷（さめがいきょうこく）

米原町上丹生　昭和16年12月13日指定



石灰岩質の古い地層を宋谷川が侵食した谷が、醒井峡谷です。湧き出る清冷な水は豊かで、滝や淵を作り流れます。夏も涼しく、古くから涼を求める人で賑わいました。秋の冷え込みは早く厳しく、紅葉の美しさは格別です。このような環境を利用し、明治11年（1878）日本初の鱒の孵化場が設立されました。

醒井峡谷について

鈴鹿山脈と伊吹山地を割って流れる天の川の支流、宋谷川の上流部、霊仙山（りょうぜんさん）の西麓に刻まれた谷が醒井峡谷です。地質は、峡谷の入り口部分が古生層硅岩、奥はすべて石灰質岩で構成されます。水源は霊仙山麓の鍾乳洞から湧き出た水で、水量が豊富で、石灰岩質の岩肌を削り、様々な渓相を見せます。

また、峰の近くには自然林が残り、下流はスギ、ヒノキの植林の中にヤマザクラ、クリなどの雑木が混生し、四季折々に味わいある景観を見せ、鳥や獣、虫たちの楽園ともなっています。



醒ヶ井養鱒場



醒井峡谷

名勝と醒ヶ井養鱒場

鍾乳洞から湧き出る水は、清浄かつ水温が低く一定で、マス属の生育に極めて適しています。名勝の中にある、醒ヶ井養鱒場は、この豊かな水を利用して、明治11年に、琵琶湖固有のマスである「ビワマス」の増殖を目的として、日本初のマス属の孵化場として設立されました。その後、民間の手で運営された時代もありましたが、現在は、滋賀県水産試験場醒ヶ井養鱒分場として、増殖や、養殖技術の研究が行われています。

養鱒場内の多数の池では、160万匹のニジマスや58万匹のアマゴ、イワナが飼育され、県内の河川や、養殖場に出荷される他、場内の施設を使った研修や、子供達の学習も行われています。

養鱒場全体が名勝の中にあり、谷に泳ぐ大きなマスの姿を見ることができます（禁漁）。醒井峡谷は、春は桜を、夏は涼を、秋は紅葉を、冬は銀世界を楽しむ人達が訪れる、観光地ともなっています。また、鱒料理を提供する店もあり、名勝という文化財を目と味覚で楽しむことができます。



石灰岩を削り流れる



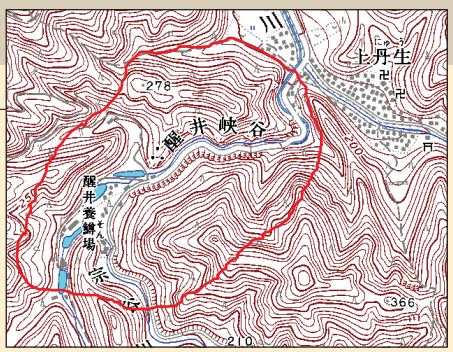
木立を流れる

関連する文化財

旧中山道醒ヶ井宿（米原町）	地蔵川の清流をはさみ広がる中山道の宿場町。西行伝説も残る落ち着いたたずまいを見せる
醒ヶ井養鱒場（米原町）	醒井峡谷の清流を利用した大規模な養鱒施設

もっと深く知りたい

米原町教育委員会　☎0749-52-6632　坂田郡米原町下多良3-3



醒井峡谷へのアクセス　JR東海道本線　醒ヶ井駅下車

【参考文献】〔滋賀縣史蹟名勝天然記念物概要〕滋賀縣史蹟名勝天然記念物調査会　〔滋賀縣名勝調査報告〕滋賀縣

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月